

# 保育実習（施設）の実習前後の意識変化と実習評価

## — 施設実習事前事後指導の向上を目指して —

Consciousness change and training evaluation before and behind training of childcare training.

## — Aim at improvement in a childcare training lecture. —

次世代教育学部こども発達学科

村田 久

MURATA, Hisashi

Department of Child Development

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部こども発達学科

岡田 美紀

OKADA, Miki

Department of Child Development

Faculty of Education for Future Generations

**キーワード**：保育実習（施設）、学生意識、施設実習事前事後指導、構造方程式モデル

**Abstract** : For a student's better training, in a childcare training lecture, the fear of childcare training is made to reduce, and it is important to raise the hope for childcare training. This research analyzes student survey data with the technique of SEM (Structural Equation Modeling), and aims at clarifying about the consciousness structure and the relation of evaluation before and after childcare training. As a result of analysis, GFI (Goodness of Fit Index) which shows the merit of a model was .710 and AGFI(Adjusted GFI) was .647. Moreover, the value of RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation) was .085. When the path to "evaluation" which is a final dependent variable was seen, the path coefficient from "fear of insecurity" was -.22, and the coefficient from "preparation" was -.14. The path coefficient from a "sense of fulfillment" and "self-valuation" is 0.1 or less, and was deleted. The student who thinks that preparation has improved has little fear of insecurity. It was shown that the student with little fear of insecurity has the high self-valuation after training. Moreover, it was shown that the student who has a high hope to training has a sense of fulfillment in a high tendency. The observed variables of "preparation" are "an understanding of the meaning of institution training", and "the subject of training, a setup of a target" and "an understanding of a use child and a person of institutions." It became clear as concrete instruction which removes fear of insecurity that it is necessary to fully teach about these items.

**Keywords** : Childcare training lecture, Student's consciousness, Structural Equation Modeling

### I. 目的

保育士資格取得のためには、保育所の実習と保育所以外の実習が必要である。多くの学生はなじみ深い保育所実習の実習内容と異なる施設への知識は少なく漠然としたイメージで実習を行っているのが実情である。また、保育士を目指す学生にとって、施設実習はその意義を見出しづらいものとなっている。学生は保育を幼児教育と捉え、施設実習の意義の理解が不十分になりやすい（志村・田畑, 2009）。

保育士は児童福祉領域の福祉専門職の国家資格であ

る。児童福祉の理念を理解し、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負っている。したがって、保育士資格取得をするためには、児童福祉の理解の一つとして、児童福祉施設等の実習は重要なものとして位置付けられている。そして、このように位置付けられる実習を有意義にするためには、実習の準備として事前事後指導が重要となる。事前事後指導では、実習を行う施設の役割や機能、入所児童の特性等について実習への準備を整えさせる指導が行われる。しかしながら、実際には、実習を事前指導で明確にイメージさせることは難しく、実習そのものは学生の想定内で展開さ

れることはなく、学生は実習現場で様々な戸惑いを体験する。よって、学生が将来につながる実習を自ら考え、遂行していくためには、事前指導において、実習への不安感を軽減させ、実習への期待感を高めることが重要となってくると考えられる。

実習指導と学生の意識に関する研究に、石山・安部(2008)、石山・安部・田中(2010)があるが、主として質的な視点からのアプローチであり、その量的な視点での構造把握を行っていない。また土谷(2009)は実習後のアンケートから実習の意義について考察しているが、実習前後の意識変化と評価との関係までは踏み込んでいない。

以上を踏まえた上で、本研究では、アンケート調査データを構造方程式モデルの手法で分析を行う量的アプローチで学生の施設実習の事前事後の意識構造と評価の関係について明らかにすることを目的としている。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 調査概要

本研究では、環太平洋大学乳次世代教育学部乳幼児教育学科の保育士資格取得ために保育実習事前事後指導を受講した78名を対象とした。調査は、実習直前に第1回を行い、実習終了後の事後指導の中で第2回を行った。

有効回答者数は2回の調査に回答した68名であった。なお実習は9月17日～9月26日の時期に実施された。調査の時期は第1回が9月であり、第2回が10月であった。

### 2. 調査項目

第1回調査の調査項目は、「実習準備」、「不安感」、「期待感」であり、第2回調査では「充実感」、「自己評価」であり。最終的な従属変数として、施設が行う「評価」を設定した。

具体的な質問項目は「実習準備」については、以下の項目について5件法で訊ねている。〈施設実習の意義(目的)の理解〉、〈実習の課題、目標〉、〈実習に行く準備や学習〉、〈施設の利用児・者の理解〉であり、「不安感」については、〈全体的不安感〉、〈利用児・者について〉、〈自分自身の精神〉、〈自分自身の体力〉、〈職員とのコミュニケーション〉であり、「期待感」については、〈施設での利用者の生活を知る〉、〈施設の環境や雰囲気を知る〉、〈職員の行動やケアの方法を学

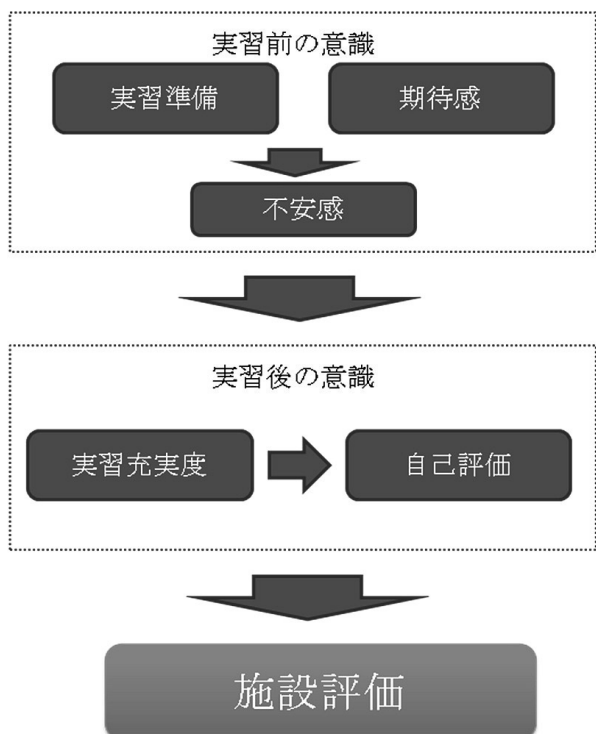
ぶ〉、〈自分が成長する〉、〈施設の現状を知る〉であり、「充実感」については、〈積極的に実習に取りくめたか〉、〈利用者と上手くコミュニケーションがとれたか〉、〈職員と上手くコミュニケーションがとれたか〉、〈施設実習は有意義であったか〉であり、「自己評価」については、〈施設での利用者の生活を知ることができた〉、〈施設の環境や雰囲気を知ることができた〉、〈職員の行動やケアの方法を学ぶことができた〉、〈自分自身が成長できた〉、〈施設の現状を知ることができた〉であった。

### 3. モデル設定

図表1は本研究で設定するモデルのイメージ図である。大きくは実習前意識、実習後意識、施設評価に区分される。実習前意識では、「実習準備」と「期待感」を外生変数とし、不安感へ影響を与える。実習後意識では「実習充実度」と「自己評価」を設定し、「実習充実度」が「自己評価」に影響を与える。最終的な従属変数には施設評価を設定している。

モデルを構築する統計的手法には構造方程式モデルを用いる。構造方程式モデルは共分散構造分析とも呼ばれ、社会現象・自然現象などの因果関係を調べる統計的手法である。直接観測される変数(観測変数)から、直接観測できない潜在変数を導き出し、その潜在変数と観測変数の因果関係について仮説(数値モデル)を設定することによって、さまざまな現象を理解

図表1 分析モデルのイメージ図



しようという統計的アプローチである。

本研究では、「実習準備」、「期待感」、「不安感」、「実習充実度」、「自己評価」、「施設評価」が構成概念となる。但し「施設評価」については1重指標である。

### Ⅲ. 結果

図表3は構造方程式モデルによる分析結果を示したものである。モデルの当てはまりの良さを示すGFIは.710、AGFIは.647であった。また、RMSEAの値は.085であった。

パス係数については、構成概念を識別する観測変数の変数について.45以下の基準で削除した。また、構成概念間のパスについては、.1以下の基準で削除の対象とした。具体的な係数についてみていくと、「実習準備」からのパス係数で最も大きな値であったものは、「実習準備」→「自己評価」であり、-.54であった。実習準備ができていると感じている学生ほど自己評価が高いことを表わしている。次に大きな値であったものは、「実習準備」→「不安感」であり、-.51であった。実習準備ができていると感じている学生程不安感が少ないことを表わしている。「期待感」からのパスで最も大きな値であったものは、「期待感」→「実習充実度」であり、-.20であった。期待感が高い学生程、実際の実習で充実感を感じていることを表わしている。「不安感」からのパスで最も大きな値であったものは、「不安感」→「自己評価」であり、-.48であった。不安感が低い学生ほど、自己評価が高いことを表わしている。「実習充実度」から「自己評価」へのパス係数は-.38であり、実習の充実度が高い学生ほど自己評価が高いことを示している。

最終的な従属変数である「評価」に刺さるパスを見ると、「不安感」からのパス係数が-.22であり、「準備」からの係数が-.14であった。「実習充実度」と

「自己評価」からのパス係数は0.01以下であり、削除された。

「不安感」を識別する観測変数の単純集計は図表2に示した通りである。実習全体に対する不安（「実習に不安はありますか」）は「とても不安」が27.9%、「まあまあ不安」が38.2%、「少し不安」が27.9%、「不安はほとんどない」が2.9%、「全く不安がない」は1.5%であった。「利用児・者にどのように接していけばよいか」の間では、「不安はほとんどない」が最も割合が多く、36.8%であった。「自分自身の精神面」の間では、「不安はほとんどない」という回答割合が最も高く、30.9%であった。「自分自身の精神面」の間では、「まあまあ不安」が56.6%で最も回答割合が高かった。「職員とのコミュニケーション」の間では、「少し不安」が36.8%で最も回答割合が高かった。「失敗したらどうしようという不安」の間では、「少し不安」、「不安はほとんどない」が双方とも27.9%で最も回答割合が高かった。

### Ⅳ. 考察

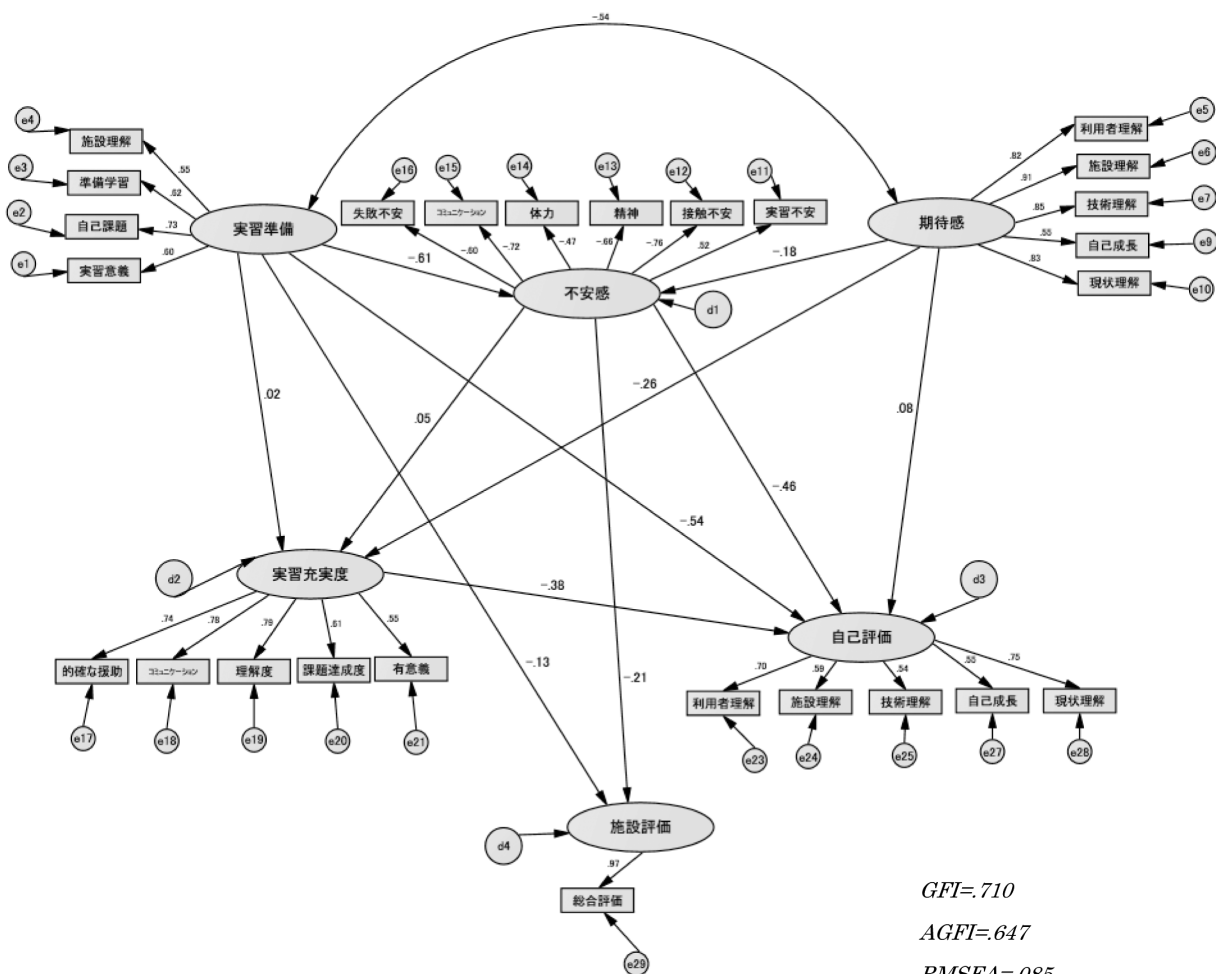
本研究では、事前指導を受けた学生の実習前の意識と実習後の意識の関連構造、そしてそれらが評価とどのように結び付いているかを構造方程式モデルにより因果モデルを構築し、構造把握を行った。分析の結果はおおよそ想定された因果モデルが得られたといえる。

準備がよくできていると考えている学生は不安感が少なく、不安感の少ない学生は実習後の自己評価が高いことが示された。また、実習前に実習に対する期待感が高い学生は実習の充実感が高い傾向にあることが示された。しかしながら、パス係数は高い値ではなく、期待感と充実感に大きな因果関係はないといえる。期待感からは総じて大きな影響を与えるパスはな

図表2 不安感に関する質問項目の単純集計結果（N=68）

	とても不安	まあまあ不安	少し不安	不安はほとんどない	全く不安はない
実習に不安はありますか	27.9	38.2	27.9	2.9	1.5
利用児・者にどのように接していけばよいか	0.0	2.9	32.4	36.8	26.5
自分自身の精神面	7.4	23.5	23.5	30.9	13.2
自分自身の体力	14.7	56.6	27.9	5.9	4.4
職員とのコミュニケーション	5.9	29.4	36.8	20.6	5.9
失敗したらどうしようという不安	4.4	13.2	27.9	27.9	25.0

図表3 構造方程式モデルの分析結果パス図



く、これは施設実習が保育士を目指す学生にとって、意義を見出しかねる学生が多く、もとの期待感が低いことや、施設実習の性質上、学生が希望する施設種別に学生を割り当てることができないことが要因として考えられる。

評価に関しては、「不安感」と「準備」の関連が見られたが、大きな値ではなかった。また、学生の自己評価と実際の評価には関連が見られなかった。つまり、総じて大きな影響を与える要因は見られなかったと考えることができる。この要因としては、評価は各施設が行うものであり、施設によりその評価基準にバラツキがあることがあげられる。また、同じ施設であっても、評価者が異なり、ここにもバラツキが想定される。但し、本研究では、不安感と評価の因果関係が示唆される結果が認識されたので、事前指導により学生の不安感を小さくし、不安感を取り除くことは、施設での評価をあげることで、即ち有意義な実習を行う可能性に繋がることが示唆されたといえる。

図表2で不安感の具体的な集計値を見て行くと、全体的に漠然とした不安は高いが、領域別の不安感では項目別にバラツキが見られる。不安感が高い項目としては、「自分自身の体力」、「自分自身の体力面」があげられる。不安感が低い項目としては、「利用児・者」とどのように接していけばよいか」があげられる。これらのことから、学生は具体的な技術、支援についてよりも、10日間の実習をやっているかという体力面や漠然とした精神面に不安を感じていることが伺える。また、職員とのコミュニケーションに不安を感じる割合も多く、実習技術より実習環境に不安を抱いていると考えられる。

不安感を取り除く具体的な指導としては、準備の観測変数である「施設実習の意義の理解」、「実習の課題や目標の設定」、「施設の利用児・者の理解」があげられ、これらの項目について事前指導で十分に行うことが求められていることが改めて明らかとなった。

また、施設実習の期待感を高める工夫を行い、実習

の充実感を増加させ、その充実感が評価に現れる経路の出現も期待される。先行研究では、実習において実践的な知識を得られるとの期待感が実習前に高い学生は、期待感が低い学生よりも実習後に実践的な知識が得られたと自己評価していると報告（貴田・谷口, 2012）されており、施設実習では期待感の高める意識的な指導が必要であろう。

#### 引用・参考文献

- 石山貴章・安部孝（2008）．保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題（１）：短期大学「施設実習」に向けた事前指導を通して．九州ルーテル学院大学紀要．38, 157-170.
- 石山貴章・安部孝・田中誠（2010）．保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題（２）：実習事後指導を通じた「自己評価」と「気づき」に関する分析から．九州ルーテル学院大学紀要．40, 59-72.
- 貴田美鈴・谷口篤（2012）．保育実習（施設）の事前指導と実習後の学生の意識：実習の期待感と不安感、及び学生成果の自己評価．岡崎女子短期大学研究紀要．45, 21-28.
- 志村聡子・田畑光司（2009）．保育士養成課程における実習事前事後指導：初めての「施設実習」に向けた動機形成への取り組み．埼玉学園大学紀要人間学部篇．9, 305-311.
- 土谷由美子（2007）．保育実習に関する意欲と現状について：学生アンケートを中心に．中国学園紀要．6, 167-171.